

協働事業提案制度 公開プレゼンテーション 講評（概要）

平成25年10月18日（金）14時～15時

協働事業提案制度選定委員委員長 久隆浩

去年度は、残念ながら0件で公開プレゼンテーションが開催されていない。今年度は、2件が公開プレゼンテーションまで進み、これから審査するが、マッチングができてよかったと思う。今回の2件は、いずれも非常に難しい事業。全国的にも試行錯誤しているテーマではないか。

市民公益活動と行政の事業という2つの関係をどう考えるかは、微妙なところがある。一般的には、自主的な公益活動に対して、市が応援をする形で、補助金などを助成することが多い。

市は、市民の自主的な活動を応援してきた一方で、自分たちの仕事を、誰かに任せる委託事業と言う形をとってきた。こういう従来の委託事業と、新たな協働事業が、どう違うのかということで少し整理をさせてもらいたい。

協働事業は、市側からすると、委託事業に近いのではないかと思う。この制度では、市民が提案をするが、最終的には、市の事業になると認識している。

では、今までの委託事業と、市民提案型の協働事業と、何が違うのか。これまで、市側が内容を決めて仕様書を出すという事業がほとんど。ところが、受託するNPO側からすると、先にガチガチに仕様が決まっていた、NPO側には、やりたいことがあるのに、自分たちがやりたいように工夫ができないということが多い。

そこで、NPOが市の事業となるような提案をして、市が事業化を行うという仕組みが、協働事業提案制度ということになると思う。協働事業提案制度では、取り組む内容は、自由に市民、団体側が提案できる制度だと認識している。そういう形で整理すると、非常にわかりやすい。

市の事業であるから、例えば継続性が問題になるとか、何か問題が起これば、最終的には、市の責任が問われることもある。委託事業でも、業者が何か問題を起こした時に、業者の責任はあるけれど、一義的には市が監督責任という問題を抱える。それと同じ観点になるのではないか。

そう考えれば、協働事業の意味合いがより明確になる。市民活動団体も、自分たちが提案した事業だが、形としたら委託に近いので、市からの委託を受ける関係になるものと理解してほしい。

例えば、トモロスと農林課の関係でいうと、今までは、トモロスの自主事業として実施していたので、なぜ市がトモロスに補助や支援するのかという話であったが、今回の協働事業では、市も様々な取り組みや役割が生じるので、事業が進みやすくなるだろうし、トモロスも動きやすい。

協働というような事業形態が今まで存在しなかったので、非常に理解されにくいし、団体側も市側もどうマッチングを組めばいいのか、経験がないと難しい。それぞれの役割を整理しながら、実績を積んでいけば、提案型の事業化のモデルになるのではないかと期待する。

協働事業提案制度には、今回のような市設定テーマに市民が応える事業と、市民が自由に提案する事業があるが、自由提案型の事業のマッチングは、なかなか実現するのが難しい。今回は、市が一定のテーマという枠を投げかけて、農林課・青少年育成課という提案の引き受け先も事前に分かっているもので、団体が提案を出しているから、マッチングしやすかった。

しかし、市民側が自由に提案を出した時に、これはどこの課の事業かという問題が起こる。誰がパートナーなのか。パートナーとして指名された担当課も、突然のことで予算もないとか、たくさん仕事を抱えているのに、この提案事業は誰が担当するのかという話が出てきて、時間配分とか予算配分という意味で、手間がかかるというように、難しいところがある。そのようなハードルを乗り越えて、より多くの事業が成立できたらと期待する。

これまで、市は、いろいろなテーマで、地域団体や市民団体に働きかけている。こういう事業してくれませんか、こういうことで動いてくれませんか、お金もあるからと。それを受けて、団体側は、じゃあやりましょうとなって実際に動くという関係を、これまで何十年と続けてきた。

一方で、団体や市民の側からは、市のほうでこれをやってくれませんかとお願いしても、いやそんなのはできないという答えが多い。これではちょっと不公平ではないかという声がある。

市が提案する取り組みは、どんどん地域で受け取っているのに、市民から出てきた取り組みは、なかなか受け取ってもらえないというような話をたまに聞く。そのような不公平感を解消するための制度が、自由提案型の提案事業だと思うので、市には、できるだけ懐を深く受け取っていただいて、それぞれの事業の実現が進んでほしいと思う。

自分の想いは自分でコントロールできるが、他の人の想いを受けると、自分がそれをどう受け止めるかという問題が発生することで難しくなる。自由提案型の提案が受けづらいというのは、そこに原因があるように思う。市民の思いを市の職員としてどう受け取ったらいいのか。

ぜひ、「うちの課じゃない」ではなくて、「うちの課が引き受けましょう」という形で、手を挙げていただけるような自由提案になればと祈念して、講評とさせていただく。

2件とも、非常に公共性の高い事業だと思うので、これから審査に移るが、ぜひ着手に向かってほしい、モデル的な協働事業になってほしいと期待する。

以上